



秋
三年 大しろ たけ文

秋になると葉が赤い
葉がおちると
ちようちよみたい
ぜんぶ落ちると
ちようちよの山

雲
三年 仲田 みえ子

雲がもくもく
きもちよさそう
楽しそう
「あつ」といつまに
いっちゃった
雲がもくもく
きもちよさそう
楽しそう
いつかのりたい
あの 雲に

夏休み
三年 嘉手納 千太

夏休み
せみの声
あそべ あそべと
聞こえるよ
夏休み
母の声
学べ 学べと
うるさいな
夏休み
友の声
あそぼう あそぼう
聞こえるな

カブトムシのかぶきち
三年 田里 礁英

木にぶつかった
カブトムシのかぶきち
ドーンとなった
ドーンとなった
だいじょうぶか かぶきち
家にひびき 人にひびき
もつとぶつかれ
つぎは コンクリートに
ちようせんだ!!

グローブの目
三年 浦崎 政成

しあいの時しか
目をあけないグローブ
あけるよ あけるよ
あけるよ グローブ
きみが目をひらいたら
だれでもつかうさ
みんなは お前の手入れを
することが好きだ
あした あけれよ
あけれよ グローブ

●今回は開南小学校のお友達です。

国際ソロプチミストは(私たちは)、管理職、専門職に就いている女性の世界的組織で、人権と女性の地位を高める奉仕活動をしています。世界125の国と地域に3,000以上のクラブがあり、約9万人の会員が女性のために変化をもたらす奉仕活動を行っています。



SOROPTIMIST
Best for Women

*ロゴマークがわかりました。女性と女兒をサポートする団体のイメージを表しています。

■発行
2012年12月

■発行所
国際ソロプチミスト沖縄
〒900-0015
那覇市久茂地2-10-20-301号
TEL (098) 869-9871
FAX (098) 943-0349
ホームページ
http://www.soroptimist-okinawa.org/

■発行責任者
砂川 正子



会長挨拶



国際ソロプチミスト沖縄認証37周年を迎え、思うことは、ソロプチミスト沖縄の奉仕を支え、社会に貢献してこられた先輩たちへの感謝の気持ちです。

今年、会長をお引き受けした私に何がで 国際ソロプチミスト沖縄 会長 砂川 正子
きたかと思えるクラブ、皆が支えあい楽しく奉仕を続けたいと願うクラブへの雰囲気作りだと考えました。

毎月の例会において、ソロプチミストシンフォニーと、ソロプチミスト誓約を全員で唱和するとき、心が一つになるのを感じます。また、リジョン大会や、日本財団年次大会に参加することで、学ぶだけでなく会員相互の親睦がより一層深まることを感じます。

ソロプチミスト会員は「地域社会と世界中で女性と女兒の生活を向上させる」をスローガンに、奉仕の理念を忘れることなくお互いに支えあいながら前進していきたいと思えます。

「誰のために」「何のために」を心に深く留め、未熟な私ですが、皆さまの支えをいただいてこの一年、地域に根差した奉仕活動や継続事業の運営に努めていきたいと思えます。ご協力をよろしくお願いいたします。

2012年度 新役員名簿

会長	砂川 正子	会長エレクト	喜舎場 直子
レコーディング セクレタリー	福嶺 博子	ホスピタリティ セクレタリー	崎原 末子
トレジャラー	宮里 美恵	理事	渡名喜よし子
理事	普天間 初子		

SOLT 一泊研修を終えて

今年度の研修目標は「クラブの健全な維持をめざし異世代、異業種の会員が同じゴールに向かって助け合い、より良いクラブの発展をめざす」でした。国際ソロプチミストのめざす重点活動を共通理解するために、連盟、リジョン、クラブが同一の資料を使って研修を行いました。世界のソロプチミストが最も必要としている「女性と女兒の生活を向上させる」というテーマへの活動を展開するため、国際ソロプチミスト沖縄においても地道な活動を推進していくことにしました。

懇親会では、城間緑さんの米寿祝いをしました。それぞれがハロウィーンの仮装で参加、「おてもやん」で緑さんの故郷、熊本へ思いを寄せました。

これからもますますお元気で過ごされ、私ども国際ソロプチミスト沖縄へのご指導ご鞭撻をお願いし、和やかに会は進められました。規約決議・SOLT 委員長 石川 美智子



研修に熱心な会員



ハロウィーンの仮装で城間会員の米寿を祝う

活動報告

ソロプチ財団が寄付金
クイナ保護NPOに50万円
公益財団法人ソロプチ国際連盟(本部)は、クイナ保護NPO(本部)に50万円の寄付金を提供し、クイナ保護NPOの活動を支援する。クイナ保護NPOは、クイナ保護NPOの活動を支援する。クイナ保護NPOは、クイナ保護NPOの活動を支援する。

被災地支援で公演
玉城流翔会 会主ら華やかに
玉城流翔会(本部)は、被災地支援の一環として、玉城流翔会(本部)の公演を行いました。玉城流翔会(本部)は、被災地支援の一環として、玉城流翔会(本部)の公演を行いました。

ソロプチ財団が寄付金
クイナ保護NPOに50万円
公益財団法人ソロプチ国際連盟(本部)は、クイナ保護NPO(本部)に50万円の寄付金を提供し、クイナ保護NPOの活動を支援する。クイナ保護NPOは、クイナ保護NPOの活動を支援する。クイナ保護NPOは、クイナ保護NPOの活動を支援する。

編集後記

平成二十四年度十二月の広報誌を発行いたします。各会員の活発な活動をお届けできればと、委員一同がんばりました。早く記事や写真をお寄せいただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

青い窓に登場していた

だいた開南小学校のよい子の皆さま、高良恵子校長先生、ご指導くださった担任の先生方、ご協力誠にありがとうございました。

広報委員長 与儀啓子
翁長孝枝
宮里眺子
山内勝美

ソロプチミスト日本財団 年次贈呈式報告



公益財団法人へと移行(平成24年3月1日付け)して、初の年次贈呈式が11月8日、札幌で開催され、日本5リジョンの会員(1,900名近く)のソロプチミストが参集しました。

公益認定を得て、日本のソロプチミストの信頼を高め、知名度アップに繋がる意義深い年度に、私ども国際ソロプチミスト沖縄推薦の特定非営利活動法人どうぶつたちの病院沖縄が、日本財団活動資金援助を受けました。砂川会長他、出席した12名の会員と共に、喜びを分かち合いました。

どうぶつたちの病院沖縄の皆さまが、今回の援助を機にさらに活動の輪を広げ、地域に貢献して下さることを期待し、応援していきたいと思えます。

南リジョン財務・資金調達委員長 新城 伸子



どうぶつたちの病院沖縄が 活動資金援助を受ける

▲田中理事長から代理受賞の砂川会長



▲ヤンバルクイナ保護活動資金伝達贈呈を受ける金城副理事長

国際ソロプチミスト アメリカ第42回隔年大会

7月18~21日、ホノルルにて国際ソロプチミストアメリカ主催の第42回隔年大会が開催されました。大会議事として、SIA細則の三つの改正案の審議があり、基調講演は、映画製作者で女優、女性の代弁者、擁護者のジェニファー・シーベル・ニューサムさんが行いました。

メディアが女児の人生に及ぼす有害な影響と、この弊害を覆すためにできることについて講演されました。

▲大会後のパーティーへ参加の会員



▲Sクラブによるハンドベル演奏



▲シグマの素てきな笑顔



▲受賞者と喜びをわかち合う大城会員



▲受賞者と来賓の皆様



▲寿の舞いの玉城会員



▲乾杯の首領をとっていただいた沖縄尚学高等学校校長名城政次郎氏



▲式典を終えホットする瑞慶覧会員(右)



▲司会の山内会員



▲チャーターメンバーの皆様

去る10月25日、国際ソロプチミスト沖縄2012年(第37回)認証記念日の式典を開催しました。1995年以来継続事業の一つとして、沖縄県内の大学生へ順次奨学金を贈ることになっています。今年は名桜大学、明真理亜さま、九谷瞳さまお二人に贈呈いたしました。並びにソロプチミスト日本財団活動資金援助 NPO法人どうぶつたちの病院沖縄さま、女性荣誉賞 垣花みち子さま、女性に機会を与える賞 仲座智子さま、ヴァイオレット・リチャードソン賞 仲村優希さまに差し上げました。さらにヤンバルクイナの保護に力を入れているNPO法人どうぶつたちの病院沖縄さまは、日本財団より活動資金として50万円が贈呈されることになっています。

当日は、沖縄キリスト教学院大学・短期大学シグマソサエティーの参加と沖縄尚学高校Sクラブのハンドベルの演奏もあり、認証記念日の楽しいひとときは過ぎていきました。

奉仕プログラム委員長 久場喜代子

赤い羽募金

奉仕プログラム委員 月津千恵子

沖縄三越前にて恒例の募金活動を15名で2班に分かれ元気な声で道行く方々に協力をお願いしました。



▲募金を呼びかける会員たち



▲募金に協力する皆様

アメンボ・キャンプ

奉仕プログラム委員長 久場喜代子

8月に東村村民の森で恒例のアメンボ・キャンプが行われました。

からだに障害を持つ子どもたちが、美しい自然環境の中でキャンプを楽しむことにより自らのハンディを乗り越える力(意思)と積極的生活態度を養うことがねらいです。ボランティアの学生、沖縄YMCAスタッフ、国際ソロプチミスト沖縄会員の参加で、バーベキューを楽しみました。



▲アメンボキャンプの事業費を贈呈する砂川会長

YMCAの
知念理事長と
会員の皆様▼

アメラジアンスクールへ助成金を送る

9月21日、アメラジアンスクールへ健康診断助成金の贈呈を行いました。校長先生から「皆さまのご理解とご協力のおかげで子どもたちの健康づくりに役立てることができました。」とお礼のことばがありました。



12回目の助成金贈呈
セイヤーみどり校長と砂川会長

例会皆出席 おめでとう



皆出席者の美しいスマイル

メンバーシップ委員長 金城幸子

東日本支援 チャリティ公演「結」



琉球新報社へ浄財を託す砂川会長と玉城会員

東日本大震災被災地支援のため、玉城流翔節会(家元玉城節子)のチャリティー『結』公演が開催されました。昨年の震災発災後、被災地の皆さまは未だに不便な生活を余儀なくされ、さらに原発事故の併発に伴う被害の拡大も懸念されます。翔節会では沖縄の「結まる」の心をこめ、芸を通して被災地のお役に立ちたいとの思いで公演を企画したとのこと。その主旨に賛同し、国際ソロプチミスト沖縄も微力ながら協力をいたしました。『結』公演の浄財は琉球新報社に託され、被災地支援に役立てられることになりました。

DV被害者自立支援のための樫の木基金収支報告

(平成24年4月1日~9月30日)

基金(定期預金)1,002,641円 満期平成24年10月13日

収入		支出	
繰越金	1,988,498円	支援2件	170,000円
今期募金	46,929円		
佐久本眞智子様寄附金	30,000円		
返済金	173,000円		(平成24年2号の方は完済されました)
銀行利息	157円		
合計	2,238,584円		

平成24年度後期への繰越金2,068,584円

募金にご協力くださった方々に感謝申し上げます。

なお、平成24年度は国の予算によるDV被害者支援事業が実施されたため女性相談所からの支援要請件数が少なく、資金に余裕ができたので、定例会における募金はしばらく見合わせます。

樫の木基金委員会委員長 大城 光代